

平成26年2月3日

論文審査結果の要旨

専攻 入学年度	資源環境科学専攻 平成23年度(4月)入学	氏名	佐多 孝徳
論文題目	土地区画整理事業におけるリスクマネジメントおよび危機管理手法に関する基礎的研究		
審査委員 職名及び氏名	主査	教授 出口 近士	
	副査	教授 山本 直之	
	副査	教授 西脇 亜也	
	副査	教授 今井 富士夫	
	副査	准教授 狩野 秀之	
	副査	九州工業大学 教授 吉武 哲信	
審査結果の要旨(800字以内)			
<p>土地区画整理事業では、事業破綻につながるリスクの防止対策の選定を未だ専門家の経験則・暗黙知に頼るところが大きい。このためリスクを特定し、顕在化を防ぐための効果的な対策や資金計画の再構築方策などを体系的にマネジメントする手法の開発が必要である。</p> <p>本研究は、アンケート調査・分析に基づいて区画整理事業の専門技術者と地方自治体の区画整理事業担当者がもつリスク対策のノウハウを形式知化したものであり、2章において事業段階毎のリスクの種類とその内容を同定した。ついで3章で、これらのリスクの事業破綻への影響度を一対比較法により定量化し、公共団体施行では『調整リスク(地区界沿いおよび周辺住民)』の影響度が、組合施行では『用地リスク(産業廃棄物)』の影響度が大きいことを明らかにした。</p> <p>さらに4章で、組合施行と公共団体施行のリスク対策の有効性と実現性を定量的に評価して、公共団体施行での「合意形成リスク」顕在化に対して有効性と実現性の高いリスク対策を選定する手法を開発した。5章では組合施行での資金計画の再構築対策を体系化し、6章ではリスク対応方針決定、優先的に対応すべきリスクの特定、具体的なリスク対策を選定するためのフローチャートを作成した。これを4地区の実事業に適用した結果、フローチャートに基づいて決定したリスク対策は区画整理技術者が1番目に有効で実現性が高いと回答した対策の70%~83%で一致しており、専門家の判断を良好に再現できることを確認した。</p> <p>以上より、本研究の成果は土地区画整理事業のリスクマネジメント手法として新規性があり、実務への適用が期待されるなど、工学的意義が高いと判断できる。</p> <p>本審査委員会は、以上の論文内容と平成26年2月3日に開催された公聴会での発表内容および質疑応答を総合的に判断し、本論文が宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士論文として適格であり、最終試験に合格したものと判定した。</p>			

(注) 論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。